

北海道 観光連盟賞

「オホーツク海のニポポ像」 清水千波 (福島県 浪江中学校)

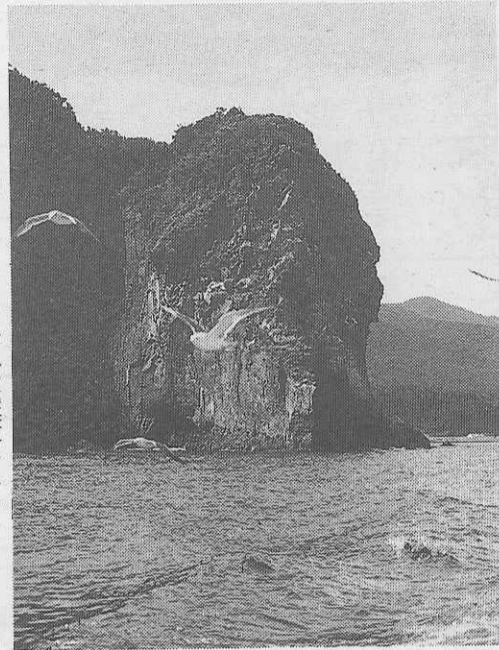


研修旅行作品から

62年度夏季研修旅行応募作品 入賞決まる

北海道知事賞

「秘境に舞う鷗たち」 犬飼 静磨 (名古屋町 名古屋中学校)

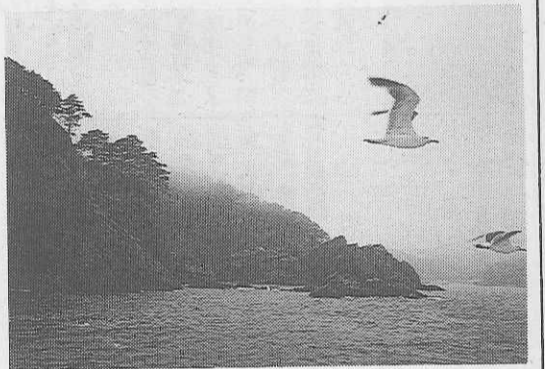


（副）全修協の本年度夏季教職員研修旅行参加者の旅の思い出、感動を豊かに表現した写真、紀行文等は多数の応募があった。協会本部では十月三十日、写真89点、詩文32点について審査会を開き入選作品を決定した。写真では掲載の3点が入賞。 詩文では、「多忙な学校勤務の中北海道の大自然に心身とも洗われ、これからの精進と実践を誓った」など、元氣回復と自己研修の機会として参加された先生方の旅の思い出を感動豊かに綴った作品が多数寄せられ、例年以上に作品の内容が高かった。

旅の思い出を感動豊かに

「海ねこ飛ぶ陸中海岸」 鶴沢 芳枝 (千葉県東金市)

入選



北海道にて

小林 文子 (兵庫県小野市)

地図たどりの地図の中より旅が見え 伝説のマリキ悲しや湖上船 洞爺湖に映える花火と旅の夜

奥の細道

岩崎 美知 (三重県鈴鹿市)

娶るなく戦死せし兵思ひみるムカサリ絵馬の下がるみ室に (立石寺) 人形の角隠し灯に白く浮く来世は添はせむ親の願ひか (同) 岩清水垂るる岩肌戒名を刻める多しほとけの山 (同) 山迫る最上川べり青墨根の二棟見えて笹舟つなぐ (最上川舟下り) 祈念して納鐘せしといふ鏡池うつる神殿わづかゆらげり (羽黒山) 湯の宿の芝生に一羽鶴のすばやく飛び黒き背みせ (落合ホテル) 上杉家能装束紅花縫着織をひき上げて今に燦たり (本間美術館) 舟浮べ芭蕉の愛でし雲海は青田の中に松の山みゆ吾が前を走りゆく霧やうすれ紅の色見す山アザミの花 近江八景模し名園池の辺に秋咲きむむる七月の屋 (新築田 清水園)

五泊六日北海道旅の思い出

福岡県いわき市立平第三小学校 高田 トミ

あれがれの北海道にロマンを求めて、気の合う女同志三名、今回の研修旅行に参加させて頂いた。多忙な学校生活の中で六日間の休暇を頂く事に多少の遠慮はあったが、学校長の「夏休みの自己研修に北海道の自然、社会科巡検に大いに期待する」と励ましの言葉を頂戴し、改めて何をどうするか、どの様に自己教育に活かす機会とすべきかを心に決意し参加した三人であった。

結果は美り多き六日間。期待通りの成果を身につけることができた。まず、第一に研修というこの旅行とスケジュールの組み方についてである。専門的な行程表と実施時間間に一分の狂いも生ぜず若い添乗員のエネルギーの仕事振りとう旅行者の世話振りにすっかり魅せられ、久しぶりは温かい人間性に安堵感や楽しさを味わうことができた。

等、謙虚ながらも明るい言動に心地よい旅の印象を深めることができた。最初の千歳での講話は特に北海道に接する者のアドバースとしてわかりやすく好評であった。

も千歳での講話が役に立ち、五年生の男の子と火山脈や活火山、休火山、硫黄岳、羅臼岳などの会話に花が咲き「日高山脈もあつたけ」と子ども自身が乗って来てガイドさんの話に傾聴の態度を示すようになった。一方一年生の女の子には、今日の絵日記どう書いたらいいかなと問いかけ、子どもを持って余し気味の若い母親に、絵日記の書き方

にまき教育的縁となられる可能性を有することを教えられた。第三に、北海道の広大な土地自然、気象状況に左右されない情景の数々に接し、最近科学方能で自然の敬虔さを感じ視しがちな己の驕慢さに気づかされ、耐え忍ぶ石右に敬虔を覚えた。見渡す限りのじやがいも畑、ピート畑のたわわに実った作物と人間との関

大阪・神戸 別府さんふらわあ 12,000円 KANSAI KISEN 大阪南港 19.00発 神戸中突堤 20.30発 別府 8.00着 20.30発 別府 19.20着 6.50着

修学旅行の楽しいお食事 箱根彫刻の森美術館内 レストラン コンポート 500名様迄、ご利用いただけます。当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

育てる心は、みんな同じ。 別府あじむ草原 アフリカンサファリ 営業受付時間 9:00~17:00 (3月16日~11月15日) 9:30~16:00 (11月16日~3月15日) 修学旅行料金 高校生 1,000円 中学生 700円、小学生 600円 ガイドラジオ バス1台につき1,000円

昭和61年オープン ほくれい 新館増築「北嶺」 (130名収容) 座禅体験で「心、リフレッシュ!!」 国際観光旅館 延暦寺会館 本館 17室 194帖 120人 比叡 28室 260帖 200人 北嶺 15室 160帖 130人 計 60室 614帖 450人



